

授業科目 基礎理学療法治療学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	PT
黒川幸雄、高木昭輝、大西秀明、 相馬俊雄、小林量作、宗形美代子 非常勤講師		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60
【概要及び学習目標】					
<p>概要 運動療法の基礎治療論、基礎治療技術について学習する。</p> <p>運動療法では、各種の障害に対して適切な運動療法が実施できるように知識・技術を理解し、修得する。</p> <p>総論では、歴史、定義、対象疾患・障害、効果、機器などのついて学習する。</p> <p>教育目標 運動療法の歴史・定義・対象等と治療・指導方法などの知識・技術について理解し、技術修得を目指す。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動療法の歴史、定義、目的、方法などを理解し、説明できる。</li> <li>2 運動療法の未解決な問題について理解し、問題解決の方向性を探る。</li> <li>3 関節の構造と運動、筋収縮のメカニズム、随意運動のメカニズムについて理解し、説明できる。</li> <li>4 運動制御と運動学習、運動と呼吸、運動と循環、運動と代謝について理解し、説明できる。</li> <li>5 運動の種類、関節可動域運動、筋力増強運動について理解し、説明できる。また基本的技術を行える。</li> <li>6 固有受容器性神経促通手技についての基本的知識を理解し、基本的技術を指導助言の下に行える。</li> <li>7 持久力増強運動、協調性運動、姿勢調節、切断などの基本的技術を理解し、基本的技術を指導助言の下に行える。</li> </ol>					
回数	学習の主題	学習内容			学習方法
1	授業の全体構成の把握	オリエンテーション、学習の内容、順序、関係など			講義
2	運動療法の概念	運動療法の歴史、定義、目的、方法、現状と課題など			講義
3	運動の種類	他動運動、自動運動、筋収縮の様式による分類など			講義/実習
4	関節可動域運動	他動・自動運動（頸部、体幹）			実習
5	同上	他動・自動運動（頸部、体幹）			実習
6	同上	他動・自動運動（上肢）			実習
7	同上	他動・自動運動（上肢）			実習
8	同上	他動・自動運動（下肢）			実習
9	同上	他動・自動運動（下肢）			実習
10	実技テスト	基本的な知識・技術の確認			実技test
11	筋機能改善の方法	筋力増強の方法についての基本的知識（筋力の概念、基礎的理論、原則			講義/実習
12	筋力増強運動	頸部・体幹			実習
13	同上	頸部・体幹			実習

14	同上	上肢	実習
15	同上	上肢	実習
16	同上	下肢	実習
17	同上	下肢	実習
18	PNFの基本的事項	最近の米国のPT治療学の事情など、基礎理論など	講義
19	基本的知識・技術	基本原理・技術	講義/実習
20	同上	上肢	実習
21	同上	下肢	実習
22	同上	上肢	実習
23	持久力	持久力増強運動	講義/実習
24	同上	基本的な方法	実習
25	体力	基本的概念と方法	講義/実習
26	同上	体力向上運動練習	実習
27	協調性	協調性改善運動の基本的知識と方法	講義/実習
28	同上	協調性改善運動	実習
29	姿勢調節	姿勢保持・矯正・調節運動	講義/実習
30	切断端の運動	切断端の管理・運動など	講義/実習

【評価方法】

出席状況・実習の態度・レポート・定期試験等から総合的に評価する。

【履修上の留意点】

出席や授業中の態度（積極性）を重視する。

実習が毎回入る可能性があるので運動しやすい服装で出席すること。上肢下肢をハンドリングするのでTシャツ、半ズボンになれるよう準備してくる事。

【使用図書】

教科書 参考書 など	書名	編集・著者名	出版社名	発行年・価格
教科書	標準理学療法学シリーズ ①運動療法学総論	奈良勲監修 吉尾雅春編集	医学書院	2001、¥4700
参考書	②運動療法学各論 適宜紹介などする。	同上		2001、¥5600